

Mr. HORI-NY で活躍した松江出身の写真家・堀市郎写真展

——小泉八雲が応援した写真家——

【第二期】

堀市郎は、明治12年(1879)、現在の松江市外中原町に松江画工・堀櫨山の長男として生まれ、松江市尋常小学校卒業した。市郎をアメリカへと導いた人物に小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)がいる。市郎は、八雲が巔頂にした殿町の写真師・森田禮造の許で修行し、八雲の美保関旅行にも同行した。旅行の5か月後、市郎は上京し、東京で孤独な生活をしていた八雲宅を度々訪れた。アメリカでジャーナリストとして活躍した八雲との交流は、市郎にとり、その国情を知り、本場での写真研究を目指す動機づけとなった。

1901年(明治34)、22歳の市郎は単身渡米する。ニューヨークで成功し、「写真の開拓者」と言われた。動きのある写真で評価され、「ブロードウェイで上演される役者のポスターが、ミスター堀のものでなかったら一流でない」とすら言われた。また、無声映画時代の国際的ハリウッドスター早川雪洲や、蝶々夫人で有名な三浦環、バレリーナのアンナ・パブロアやモダンダンスの祖イザドラ・ダンカンなどの役者、日露戦争でバルチック艦隊を破った東郷平八郎などの写真を撮影した。

市郎が住んだニューヨークのアパートの隣室に、野口英世夫妻が住み、英世が患者の脳から梅毒スピロヘータを発見した際には、深夜にもかかわらず市郎の部屋へ真っ先に知らせに訪れた。市郎は英世を理解する親友で、英世に将棋や油絵を教えた。1969年没。



堀市郎肖像写真
(佐々木寛子氏提供)

【堀市郎撮影 展示写真および解説】



①日本海海戦勝利の連合艦隊司令長官
東郷平八郎



②国連事務次長として活躍していた頃の
新渡戸稲造

【裏面へつづく】

① 日本海海戦勝利の連合艦隊司令長官 東郷平八郎

明治～昭和初期にかけての海軍軍人。日露戦争時の日本海海戦で、ロシアのバルチック艦隊を破り完勝した。
1847 生－1934 没。ニューヨークにて市郎撮影。

② 国連事務次長として活躍していた頃の 新渡戸稲造

『武士道』の著者で、旧五千円札になった人物。1919-26 年（大正 8－昭和 1）、国連事務次長（国際連盟書記局事務局次長）を務めた。1862 生－1933 没。ニューヨークにて市郎撮影。



③ 関東大震災後の帝都復興に努めた 後藤新平
④ NY で日本初の生糸直輸出を実現した 新井領一郎
⑤ 若槻禮二郎（松江出身）の通訳を務めた外交官 齋藤博

③ 関東大震災後の帝都復興に努めた 後藤新平

明治～昭和初期にかけての官僚で政治家。関東大震災後、内務大臣として帝都復興院総裁を兼務し、帝都の復興に努めた。この写真は、1919 年（大正 8）の欧米外遊で、新平がニューヨークへ立ち寄った時の写真である。

④ NY で日本初の生糸直輸出を実現した 新井領一郎

日本の実業家。中央の子供を抱く人物が新井領一郎。1855 生－1939 没。ニューヨークにて市郎撮影。

⑤ 若槻禮二郎（松江出身）の通訳を務めた外交官 齋藤博

日本の外交官で、1922 年（大正 12）12 月に NY 領事となる。1930 年（昭和 5）にロンドン軍縮会議の首席全権であった若槻禮二郎の通訳を務めた。1934 年（昭和 9）、49 歳の若さで駐米大使となった。ニューヨークにて市郎撮影。